



S.Setoguchi

THE KYOTO JUMP STAKES

第27回 京都ジャンプステークス (J・GⅢ)

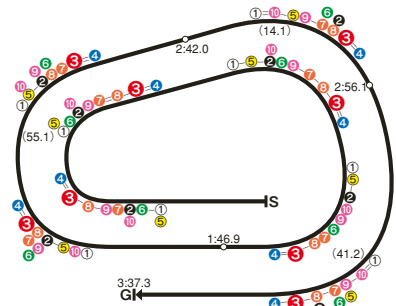
1着 2着 3着 4着 5着
本賞 30,000,000円 12,000,000円 7,500,000円 4,500,000円 3,000,000円
付加賞 350,000円 100,000円 50,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 3歳58^{kg}・4歳以上60^{kg}、牝馬2^{kg}減、J・GⅠ競走1着馬2^{kg}増、J・GⅡ競走1着馬1^{kg}増



上り1マイル: 1:50.4 上り: 800^m 600^m
55.3 - 41.2

アラカルト

- ・伴啓太騎手はJRA重賞初勝利
- ・尾関知人調教師は京都ジャンプS初勝利。JRA重賞は25年初勝利、通算16勝目
- ・サトノダイヤモンド産駒はJRA重賞通算5勝目
- ・5歳馬の勝利は14年オースミムーン以来11年ぶり、通算9回目
- ・驕馬の勝利は22年ホッコーメヴィウスに続く通算4回目

2025.11.8 京都 晴・良 芝3170^m (混合)

着順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	平均 1ハロン	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師
1	③	ローディアマント	騾5	60	伴 啓太	3:37.3	2-2-2-2	13.7	484(±0)	17.8⑥	尾関知人(美浦)
2	⑨	ディナースタ	牡6	60	高田 潤	¾	5-6-7-7	13.7	474(-8)	1.7①	辻野泰之(栗東)
3	⑥	フェーレンベルク	牡5	60	上野 翔	½	5-4-5-5	13.7	476(-6)	11.2④	千葉直人(美浦)
4	②	レッドバロッサ	騾6	60	小牧加矢太	1	5-6-3-3	13.7	516(+6)	3.8②	佐藤悠太(栗東)
5	⑧	トーアモルベウス	騾5	60	石神深一	2	3-4-3-3	13.8	482(-8)	169.6⑩	辻 哲英(美浦)
6	⑤	クラブサンダー	牡6	60	黒岩 悠	5	8-8-8-7	13.8	462(±0)	116.1⑨	牧田和弥(栗東)
7	⑩	メイショウアツイタ	牡7	60	難波剛健	1¾	9-8-9-9	13.8	508(-2)	89.1⑧	高橋義忠(栗東)
8	⑦	ナリノモンターニョ	牡8	60	五十嵐雄祐	クビ	3-3-5-5	13.8	512(+6)	7.7③	上原博之(美浦)
9	④	マテンロウジョイ	牡5	60	西谷 誠	10	1-1-1-1	13.9	468(-2)	14.8⑤	四位洋文(栗東)
10	①	ジーククローネ	騾5	60	草野太郎	大差	10-10-10-10	14.1	450(+2)	22.0⑦	宮田敬介(美浦)

単勝③1,780円(6^{kg}) 複勝③280円(5^{kg}) ⑨110円(1^{kg}) ⑥270円(4^{kg}) 枠連③-⑧1,200円(4^{kg})

馬連③-⑨1,370円(6^{kg}) ワイド③-⑨530円(5^{kg}) ③-⑥1,210円(16^{kg}) ⑥-⑨430円(4^{kg})

馬単③-⑨4,300円(14^{kg}) 3連複③-⑥-⑨2,370円(9^{kg}) 3連単③-⑥-⑨24,090円(72^{kg})

ローディアマント *Rohdiamant*

騏 鹿毛 2020.3.29生
北海道日高町 クラウン日高牧場生産
馬主・南シルクレーシング 美浦・尾関知人厩舎
馬名意味・ダイヤの原石(独)。父名より連想

ブロッサムレーンGB系 F1→

サトノダイヤモンド 鹿毛 2013	ディーブインバウト 鹿毛 2002	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	マルベンサARG 鹿毛 2006	Orpen Marsella
ブロッサムレーンGB Blossom Lane 栗毛 2011	New Approach 栗毛 2005	Galileo Park Express
		Indian Ridge Mezzogiorno
	Monturani 鹿毛 1999	

5代までのインブリード：Halo S4×S5 Ahonoora M4×M4
Northern Dancer M5×M5

INTERVIEW

矢野恭裕代表(クラウン日高牧場)

生産馬による重賞ワンツーにとっても驚きました

生産馬による重賞ワンツーという結果にとっても驚きました。生まれた頃は脚長な体形で、自分が一番という性格の馬でした。擦り傷が治りかけてかさぶたになるとそれを全部剥がしてしまうという変わった癖を持っていましたね。当歳時から昼夜放牧で鍛えていましたが、障害に転向してからの好成績をみると、あの頃につけた体力のおかげかなとも思っています。

S.Naka



最終障害の飛越後、2番手のレッドバロツサを突き放した末脚が決定打。最後までしっかりと伸びたローディアマントが、外から追い込んだディナースタの反撃を抑え、勝利を手にした。平地時代は未勝利に終わった本馬は新天地に活路を求め、24年2月に障害入り。4戦目に勝ち上がると、昇級後も3戦連続2着と好走を重ね、初めて重賞に挑戦した新潟ジャンプSでも4着に踏ん張った。3カ月の休養を挟んで臨んだこの日は、未経験の大障害コースもソツなくこなしてジャンプアツプ。冷静にレースを運んだデビュー13年目の伴騎手とともに、嬉しい重賞初制覇を果たした。

父サトノダイヤモンド

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、仏18戦8勝(菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、阪神大賞典^{GII}、京都大賞典^{GII})、最優秀3歳牡馬、19年から供用〔代表産駒〕サトノグランツ(京都新聞杯^{GII}、神戸新聞杯^{GII})、シンリョクカ(新潟記念^{GIII})、オールナット(チャレンジC^{GIII})、オーロラエックス(カシオペアS・L)、サヴォンリンナ(忘れな草賞・L)、ローディアマント(本馬)、ビップデージー(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1}2着)、スズハローム(CBC賞^{GIII}2着、京王杯スプリングC^{GII}3着)、ダイシンラー(デイリー杯2歳S^{GII}3着)

母ブロッサムレーンGB

英6戦0勝。14年輸入

ブライトホープ(15 牝父Shamardal)持込 中央4戦0勝
クラウンキング(16 牝父キングズベストUSA)中央1戦0勝
シゲルフォボス(17 牝父ダイワメジャー)中央6戦0勝、地方5戦0勝
マリノブロッサム(18 牝父ウラメンテ)中央6戦0勝、地方8戦0勝(19 前年種付せず)

ローディアマント 本馬(20 騏父サトノダイヤモンド)中央6戦0勝、障害9戦2勝(京都ジャンプS J^{GIII}) 獲得総賞金65,900,000円
アンセムパローズ(21 牝父ニューイヤーズデイUSA)中央3戦0勝、地方15戦5勝
マリノドゥードゥー(22 牝父オルフェヴル)中央2戦0勝、地方13戦3勝
ジャックナダル(23 牝父ナダルUSA)中央2戦0勝 ⑩
クラウンオルベウス(24 牝父オルフェヴル) ⑩
(25 牝父バレスマリスUSA)

祖母Monturani

アイルランド産 愛、英、伊、仏3勝(ブランドフォードS・愛^{G2}、スインレーS・英L、ニューベリーフィリーズトライアルS・英L、ウィンザーフォレストS・英^{G2}2着、フィユドレー賞・仏^{G3}2着、セルジオクマニ賞・伊^{G3}2着、ホッピングS・英L2着、ビバロングS・英L2着、ゴールデンダッフオディールS・英^{G3}3着、スノードロップS・英L3着)

アイシンクベスト Ithinkbest(06 騏父King's Best)愛、英2勝

モンテフィーノ Montefino(08 牝父Shamardal)不出走、**アナムチャチョ**
Anda Muchacho(ローマ賞・伊^{G2}、ヴィットリオディカブア賞・伊^{G2}、伊2000ギニー^{G3}、カルロヴィッタディーニ賞・伊^{G3}、ピアッツァーレ賞・伊^{G3}2回)、**パースリー** Parsley(ファーストオブクライドS・英^{G3}2着)の母
ブロッサムレーンGB(11 前出)

人馬ともに嬉しい重賞初制覇

京都の秋開催を彩る障害の名物レース・京都ジャンプSは重賞ウイナーが不在の顔ぶれで争われ、初のタイトル獲得をかけた戦いが注目された。なかでも圧倒的な支持(単勝1・7倍)を集めたのが、平地時代にオープンまで出世した脚力を持ち、障害戦では10割の連対率(5戦3勝2着2回)を誇るディナースタ。しかしその前には6番人気の伏兵ローディアマントが立ちはだかつた。

手は離れた2番手を追走し、名物の三段跳びを大過なくクリア。上位人気の3頭、3番人気の支持を集めた阪神ジャンプSの3着馬ナリノモンターニユ、これを前に見る形で5番手につけたディナースタ、その直後を進んだ京都ハイジャンプの2着馬レッドバロツサも揃って「最大の難関」の飛越と着地を無難に決めた。

障害昇屈指のフロントランナー・マテンロウジョイがやはりこの日も先手を奪取。向正面では後続に10馬身ほどのリードを開き、大障害コースに差し掛かる。ローディアマントの伴啓太騎

中盤のスタンド前では4秒余り、2周目の向正面を迎えても50メートルのリードをつけて飛ばしたマテンロウジョイだったが、3、4コーナーの生け垣障害の飛越でバランスを崩し、急激に失速。2番手以下の密集した隊列を率いてきたローディアマントがかわって先頭に立ち、直線の攻防の幕が開く。

最終障害の飛越後、2番手のレッドバロツサを突き放した末脚が決定打。最後までしっかりと伸びたローディアマントが、外から追い込んだディナースタの反撃を抑え、勝利を手にした。

平地時代は未勝利に終わった本馬は新天地に活路を求め、24年2月に障害入り。4戦目に勝ち上がると、昇級後も3戦連続2着と好走を重ね、初めて重賞に挑戦した新潟ジャンプSでも4着に踏ん張った。3カ月の休養を挟んで臨んだこの日は、未経験の大障害コースもソツなくこなしてジャンプアツプ。冷静にレースを運んだデビュー13年目の伴騎手とともに、嬉しい重賞初制覇を果たした。